

創立90周年記念特集号刊行に当たって

新たな挑戦に向けて —最近10年の鉄鋼技術の進展—

会報委員会委員長 田中龍彦（東京理科大学）

日本鉄鋼協会は平成17年2月6日に創立90周年を迎えました。これを記念して特集号を刊行する運びとなりました。

創立80周年の時には、まだこの「ふえらむ」が無く、「鉄と鋼」での特集でした。当時、和文誌「鉄と鋼」は論文誌と会報誌の両方の性格を持つ雑誌でしたが、その頃、大学等の研究者からは論文誌としての格調の高さと質の維持が望まれ、一方、企業の技術者等からは科学ジャーナル誌的な会報を望む声がありました。また、会員以外への鉄のプレゼンス主張の必要性も強く認識されたこともあって、論文誌「鉄と鋼」から会報誌としての性格を分離し、平成8年から会報誌「ふえらむ」を発行することになりました。

この特集号は「ふえらむ」刊行10年目を記念する節目の号でもあります。

この10年を振り返りますと、バブル崩壊後、鉄鋼業は低迷していました。しかし最近、中国経済の興隆等を背景に、鉄不足が叫ばれるほどの活況を呈するようになり、また、世界の鉄鋼企業のグローバル化が進み、国境を越えた合併・統合がなされ、粗鋼生産量が年間7千万トンを超える企業まで現れるようになりました。

このような中でも日本の鉄鋼技術・学術は優位を保ちながら進歩を続け、特に、製品の高付加価値化、高性能化、コストの大幅削減などにおいて大きな進展がありました。

そこで、この創立90周年記念特集号では、最近の10年間における鉄鋼技術の進展を辿るとともに、次の10年、20年の方向を見通せることを志向しました。

本特集号は、創立80周年記念特集号と同様に、網羅的にではなく、あくまでも鉄鋼技術進展の大きな流れを捉えることを編集方針としました。これは、鉄鋼技術が高度に進歩した結果、以前にも増して専門化・細分化が進み、限られた紙面では網羅的記述が困難になったことに起因します。この編集方針にのっとり、各分野ごとに、全体の流れに関する記事を紙面の1/4程度に、重要と判断される最新トピックスを3/4程度に割り振ることにしました。なお、文章は、専門以外の人にも理解されやすいよう平易な記述となるよう心がけられています。

この特集号は、会報委員会のもとに設置された創立90周年記念特集号WGによって企画・編集されました。

本号が、各会員読者によって長く有用な参考資料になることを願っています。

長期間に亘って労を惜しまずに協力していただいたWGのメンバーの方々、メンバーからの要請を快諾して執筆してくださった方々、ならびに協会事務局職員の方々、さらには、校正、印刷をしていただいた方々に心から感謝の意を表します。